



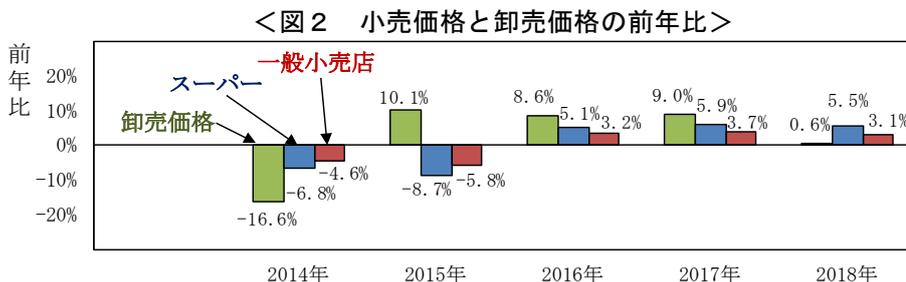
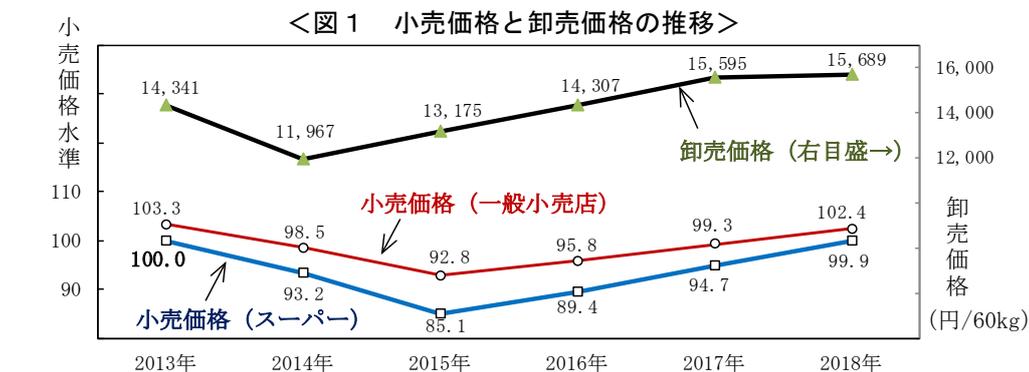
「うるち米」の価格 ～スーパーと一般小売店の比較～

令和最初の新米は購入しましたか。令和元年も残すところあと僅かとなりましたので、まだの方はお早めに。

今回は、お米の価格について、販売店舗の種類による違いを見てみましょう。

小売物価統計調査では、一部の品目（商品）について、スーパーや一般小売店などの店舗の種類別に、価格動向を見ることができます。

図1は、近年のお米の小売価格（スーパーと一般小売店（お米屋さんなど））と、卸売価格（出荷業者と卸売業者等間の取引価格）の推移を見たものです。また、図2は前年比を示しています。



出典：「小売物価統計調査（構造編）」（総務省統計局）、「米をめぐる関係資料（令和元年7月）」（農林水産省）

注1 小売価格は、「うるち米（コシヒカリを除く単一品種）」の全都道府県庁所在都市の年平均価格について、2013年のスーパーを100とした小売価格水準。

注2 卸売価格は、出荷業者と卸売業者等との間で数量と価格が決定された主食用の相対取引契約の生産年価格（運賃、包装代、消費税を含む1等米の価格）。また、年次は米の収穫時期（前年11月1日から当年10月31日までの1年間）を基準にした生産年

価格の推移を見てみると、小売価格は、スーパー、一般小売店両方とも、卸売価格から1年遅れて動いていることがわかります。秋に収穫され、その年のうちに精米・包装された「新米」よりも、年を越して店頭に出回るお米の方が多いう状況が表れていると考えられます。その意味では、「新米」は、貴重品と言えるのかもしれません。

価格の前年比をみてみると、卸売価格と比べて、小売価格は、スーパー、一般小売店両方とも、変化が緩やかになっています。2015年以降は、卸売価格が年々10%近く上昇してきたのに対し、小売価格はそれほど値上がりしてないようです。

スーパーと一般小売店を比べると、2013年～2015年にかけて、価格の下落とともに価格差が拡大してきましたが、2015年～2018年にかけては、価格の上昇とともに価格差は縮小し、最近ではほぼ価格差はなくなってきました。

いつもと違うお店に行ってみると、意外な発見があるかもしれませんね。

